

2023年は「円」と「債券」の動向がポイントに



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 日銀の政策への思惑から円高が進行

22年の世界の市場は、インフレ加速と各中央銀行の積極的な利上げを背景に、株式を始めとしたリスク資産や債券が大幅下落となるなど波乱の展開となりました（右上図）。株式と債券が同時に10%超の下落率となるのは参照指数の算出来初めてで、22年は投資家にとって困難な1年だったといえます。

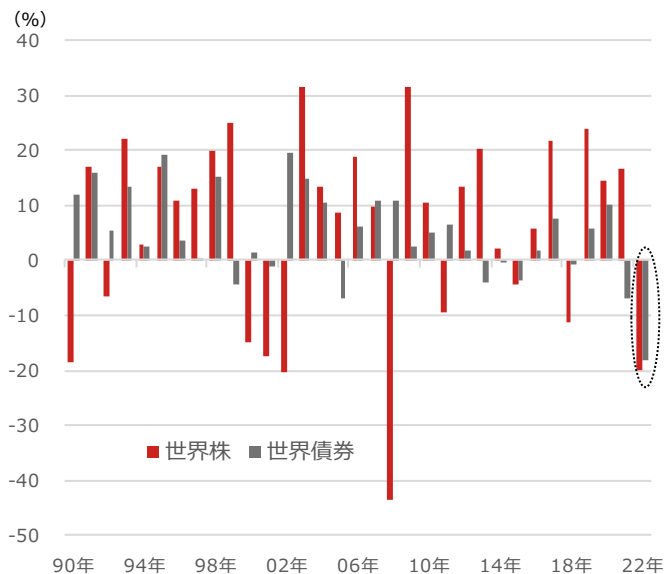
23年は世界的なインフレが鈍化するとみられ、米欧の中央銀行の利上げが一巡する可能性があることは支援材料といえます。一方、昨年末に金融政策の微修正を行なった日銀が、金融緩和策の出口戦略を実行に移す可能性があることには注意が必要です。実際、こうした懸念を背景に年明けの為替市場では円が対米ドルで一時129円台に上昇するなど円高圧力がくすぶっています。

ポイント② 債券が選好されやすい1年となるか

こうしたなか、今後の焦点は景気や信用リスクの動向に移っていくと想定されます。23年は各中央銀行によるこれまでの大幅利上げの累積効果が顕在化する可能性があるため、08年のように企業の債務不履行リスクが高まり、景気や市場が不安定化する場面も想定されます（右下図）。

もっとも現時点では、23年中に世界的な利上げが一巡する公算が大きく、金利先高観の後退が見込まれることから、「債券」への投資妙味が高まりそうです。もちろん、インフレが再加速し、物価上昇と景気悪化が同時に進むスタグフレーションとなれば、22年同様、債券安・株安の展開もあり得ますが、足元の物価動向を考えると、その可能性は一時期より低下してきたといえます。23年は債券市場の落ち着きを見極めながら、株式などのリスク資産にも見直しの動きが広がるのかがポイントといえそうです。

世界株と世界債券の年間騰落率



期間：1990年～2022年、年次
 ・世界株はMSCI All Country World Index（米ドルベース）、世界債券はFTSE世界国債インデックス（米ドルベース）
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

OECD景気先行指数・G7政策金利合計値・米ハイイールド債スプレッド



期間：（OECD景気先行指数）2003年1月～2022年11月、月次
 （その他）2003年1月末～2022年12月30日、月次
 ・米ハイイールド債スプレッドはCSI BARC Indexを用いた
 （出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。